

2026 年度 A O 選抜 文学部 言語コミュニケーション学域
「人文学プロポーズ方式」

【選考講評】

1. 実施状況

志願者数、合格者数等

学科・学域・専攻	志願者数	一次合格者数	最終合格者数
言語コミュニケーション学域	15	6	3

2. 第一次選考<ES(エントリーシート)と課題レポート・志望理由書等>

(1) 評価ポイント

以下 5 点が、どれかひとつではなく、すべて充足しているかどうか。

- ① 学域(専攻)の学びを理解し、自身が学びたいこと、探究したいことが照応しているか。
- ② 学びたいこと、探究したいことを 4 年間で実現する過程が、具体的に記述できているか。
- ③ 一般論でなく自分の言葉で、自身の能力や経験等に基づき説得的に説明されているか。
- ④ 学びたいことや探究したいことにかかわる、受験時点でも備えておくべき知識や能力を有しているか。
- ⑤ 社会的に意義深い、継続的な活動や、全国水準の顕著な成果があるかどうか。

(2) 解答状況

今年度は、(1)で記載した評価ポイントのうちで特に②を満たしていない志願者が多くいました。大学で学びたいことや探究したいこととして自身が設定したテーマ自体はユニークであっても、それをどのように実現するのかという過程が見えず、具体性に大きく欠ける印象でした。単に本学域・専攻が提供する授業科目名を挙げるだけでは不十分であることを理解し、自身のテーマを実現する上で必要な学びが何であるのか、そして授業外も含めてどのように主体的にそうした学びを得て、自身のテーマの実現に生かしていくつもりであるのかを記述するようにしてください。

過年度と同様に、評価が高かった志願者のエントリーシートは、学習・研究計画とも非常に丁寧かつ具体的であり、入学後に実現したい学びから卒業後の進路まで一貫性のある主張が感じられたものでした。一方で、志は高いものの本学域・専攻の教学との結びつきがあまり感じられなかったり、全体的に考察やアイデアが浅いと感じられるエントリーシートもいくつかあったり、それらはどうしても厳しい評価にならざるを得ませんでした。

上記と一部繰り返しになりますが、具体的で説得的な記述には、深い思索としっかりとした絞り込みが肝要です。たとえば志望理由書やプロポザルシートのなかで、小説の技法、上手なコミュニケーション、言語研究、日本語教育、と書くだけでは学びたい分野名を挙げていることと変わりません。「どのような」、そして「なぜ」、小説、コミュニケーション、言語教育、日本語教育なのか、さらには、自身のこれまでの経験や身につけた学識、不足している素養などをきちんと振り返り、言及することで、より具体的で、説得力があるものになります。

3. 第二次選考

(1) 評価ポイント

第二次選考ではプレゼンテーションと個人面接を通して、次のような点を評価しました。

- ① 言語コミュニケーション学域で学ぶための基礎学力を有しているか。
- ② 自ら主体的に考え、行動してきた経験があり、入学後同様に主体的に学ぶ意欲があるか。
- ③ 人文学のトピックを論理的かつ独創的にとらえ、考えられているか。
- ④ 自身の考えを正確に伝えられる資料と説明を提示することができているか。
- ⑤ 文学部と本学域の学びを理解した上で、テーマを探究するための適切な計画が立てられているか。

(2) 解答状況

評価の高かったプレゼンテーションでは、自身のこれまでの実践や学びを丁寧に言語化し、それらを言語コミュニケーション学域での学習内容と明確に結びつけていました。単に学びたいことを述べるのではなく、「なぜそれを学ぶ必要があるのか」という問題意識が自分の経験に根ざしており、入学後の学習計画も具体的でした。また、質疑応答や面接では質問の意図を的確に受け止め、自分の言葉で考えを述べる姿勢が評価されました。

一方、評価の低かったものは、(a)プレゼンテーションの構成や全体的な論理の流れが分かりにくい、(b)学域で提供される学びへの理解が不足しており、自身が学びたいことと学域での学習とのつながりが不明確である、(c)将来目標は明確だが、4年間の学習・活動計画との接続が弱い、(d)質問と回答にずれがあり、面接者の問いに関わらず準備した回答を繰り返す、といった特徴が見受けられました。特に(b)に関しては、自身の関心と学域の専門性との関連を、説得力をもって説明できていない例が複数ありました。また(c)については、将来像は示されているものの、大学での学びを通して何を得て、それをどのように将来へつなげるのかが曖昧な場合があります。(a)(d)に関しては、暗記した内容をなぞるのではなく、自分の言葉で具体性と説得力をもって考えを主張できた場合には、高い評価につながりました。

(3) 試験（プレゼンテーション・面接）内容

プレゼンテーションでは、予め準備したスライド資料を用いて、自身が探究したいテーマや学習・活動計画を示してもらいました。またその内容に基づき、質疑応答を行いました。面接では、エントリーシートをもとに志望動機や将来の展望を語ってもらい、質疑応答を行いました。

(4) 出題（プレゼンテーション・面接）の意図

プレゼンテーションも個人面接のいずれも（1）で述べた点を評価するためのものです。

(5) 受験生に望むこと、その他気付いた点

プロポーズ方式では、受験者自身の深い関心に基づいたテーマとそのテーマに関わる自分なりの「問い」が求められます。受験生の皆さんには、まず自らの関心や経験に根ざした「問い」を立ててほしいと思います。その「問い」は、単なる関心の表明ではなく、これまでの学びや経験を通して培われた確かな問題意識に基づいていることが求められます。さらに大切なのは、その「問い」と本学域での学びを結び付けることです。その「問い」を追究するうえで、なぜこの学域で学ぶ必要があるのか明確に述べてください。また、プ

プレゼンテーションでこれらの内容を伝える際には、準備した原稿をそのまま暗唱するのではなく、自分の言葉で具体性と説得力をもって語ることが望まれます。

以上